

空想傾性(Fantasy Proneness)の肯定的機能

—フロー体験および Well-being との関連性—

○山崎有望
(宮古市役所)

松岡和生
(岩手大学人文社会科学部)

キーワード：空想傾性、フロー体験、Well-being

【問題と目的】

空想傾性(Fantasy Proneness)とは、極めてリアルで鮮明なイメージの想起、空想・想像世界への深い没入、幼少期の鮮明な記憶、催眠感受性の高さによって特徴付けられる傾向 (Wilson&Berbar,1981;Lynn&Rhue,1988)を指す。空想傾性に関する研究は、従来は解離症状や抑うつ及び人格障害などとの関連性という否定的な側面から研究が行われることが多かった。一方近年では、肯定的な側面について、空想傾性が直接的には影響を与えないものの、さまざまなストレスコーピングを促進し精神的健康に間接的に影響を与えること(松井, 2002)や、空想傾性の強さの影響は、ポジティブ・ネガティブの両面があり、感情強度を媒介にして主観的 Well-being および自尊感情に影響を与えること(松岡, 2006)などが示唆されている。しかし、依然として空想傾性に関する研究の多くは病的か天才かという観念に偏っており、そのほかの空想傾性者の特性などについては触れられていない。また、用いられている分析方法についても、空想傾性とその他の変数との相関やt検定を用いた平均値の比較など、単純で線形的な図式でしか説明されていない。したがって、今後、空想傾性について検討する場合には、調整変数を投入したモデルによる検討などサブタイプ論的なアプローチによって、さらには近年注目されている人間の長所や強みを積極的に探究しようとするポジティブ心理学の観点から、実証的研究を行うことが必要である。このポジティブ心理学の領域において最も盛んに、かつ幅広く研究されている心理現象のひとつであるのが、「フロー体験」である。フロー体験とは、Csikszentmihalyi (1990) によって提唱された、全人的に行為に没入しているときに感じる包括的感覚のことで、「行為に深く没入している所以他のことが問題となくなる状態、その経験自体が非常に楽しいので、純粋に多くの時間や労力を費やすような状態」を指す。石村 (2008) は、フロー状態は、人格的な成長を促進させる原動力であることや、フロー体験をしやすい人は、困難な状況でさえ肯定的な意味を見つけ、積極的に対処することを報告している。このことからフローは、単なる日常生活の中のポジ

ティブな経験ではなく、日々の精神的健康を維持・促進していくための重要な指針となりうるとされている。山崎・松岡(2010) は、空想傾性とフロー体験との間に「没入」という共通事項があることに着目し、このポジティブ心理学の観点から、まだほとんど行われていない空想傾性とフロー体験との関連性について明らかにすることで、空想傾性の肯定的機能について言及することができると考え、統制の位置 (Locus of Control) を説明変数として投入し、それらの関係性について検討した。その結果、空想傾性の高さと内的統制感の高さが結びついた場合にフロー体験をしやすいという結果を導き出した。

本研究では、さらに空想傾性の肯定的機能について明らかにするため、空想傾性とフロー体験ならびに Well-being との関係について検討する。そして、空想傾性と統制の位置 (Locus of Control) がフロー体験に影響を与えることで、Well-being を規定するというモデルを作成し、Well-being の指標として「主観的幸福感/Subjective Well-being」と「心理的充実感/Psychological Well-being」の2種類の指標を採用し、比較検討を行う。

【方法】

調査対象者：県内の大学生 140 人 (男性 74, 女性 66)を対象とし、平均年齢は 18.99 歳 ($SD = 0.91$) であった。質問紙によって回答者数が異なるため分析によって有効数は異なる。

質問紙調査および尺度：

(1) **フロー体験頻度、内容およびフロー特性：**フロー体験チェックリスト・フロー体験の個人特性を測定する尺度(石村, 2008)：このチェックリストで、フロー体験を「あなたの好きな活動のうち、完全に没入することができ、行うこと自体が楽しいもの」と説明をし、日常生活でフロー体験を経験する程度を測定し (1 項目、7 件法)、その活動内容を求めた。また、フロー体験の個人特性を測定する尺度によって、日常生活におけるフロー体験を経験しやすい人の特性を測定し、合計得点を用いて以後の分析を行った (32 項目、6 件法)。

(2) **統制の位置(Locus of Control)：** Locus of Control 尺

度(鎌原・樋口・清水, 1982)を用いた(18 項目、4 件法)。また、外的統制感に関する項目を逆転項目として扱い、合計得点を内的統制感 (以後この得点を LOC と表記する) として分析に用いた。

(3)空想傾性(Fantasy Proneness) : Creative Experience Questionnaire 日本語版(CEQ-J) (岡田・松岡, 2004)を用いた(25 項目、4 件法)。ただし、宗教的経験が日常生活の基盤にない多くの日本人にとって馴染みにくいと考えられる項目は尺度から除外し、本研究では計 24 項目の計得点 (以後 FP と表記する) を指標として用いた。

(4)主観的幸福感(Subjective Well-being) : 主観的幸福感尺度 (SWBS/Subjective Well-being Scale) (伊藤ら, 2003)を用いた (15 項目、4 件法)。ただし、大学生を対象とした場合に内容が実感とかけ離れていると考えられる項目や、宗教的経験が日常生活の基盤にない多くの日本人にとって馴染みにくいと考えられる項目は尺度から除外し、本研究では計 12 項目の合計得点 (以後 SWB と表記する) を指標として用いた。

(5)心理的充実感(Psychological Well-being) : 心理的 Well-being 尺度 (西田, 2000) の合計得点 (以後 PWB と表記する) を用いた (43 項目、6 件法)。

手続き : 質問紙は授業の一環として配布し、その場で評定を求めた。

【結果と考察】

(1)質問紙尺度間の相関

各尺度間の相関を算出したところ、Table1 のようになった。FP とフロー特性との間に中程度の正の相関が認められた($r=0.179, p<.05$)。また、フロー頻度とフロー特性、LOC、SWB および PWB との間に弱い正の相関が認められた($r=0.348, p<.01$; $r=0.206, p<.05$; $r=0.349, p<.01$; $r=0.276, p<.01$)。そして、フロー特性と LOC、SWB の間に弱い正の相関が($r=0.357, p<.01$; $r=0.319, p<.01$)、PWB との間に中程度の正の相関が認められた($r=0.471, p<.01$)。加えて、内的統制と SWB および PWB との間に中程度の正の相関が認められ($r=0.449, p<.01$; $r=0.500, p<.01$)、SWB と PWB との間に中程度の正の相関が認められた($r=0.687, p<.01$)。

Table1 FP、LOC、フロー体験、Well-being の相関

	FP	フロー頻度	フロー特性	LOC	SWB	PWB
FP	1	0.179*	0.422**	0.096	0.045	0.02
フロー頻度	(125)	1	0.348**	0.206*	0.349**	0.276**
フロー特性	(109)	(109)	1	0.357**	0.319**	0.471**
LOC	(126)	(126)	(110)	1	0.449**	0.500**
SWB	(125)	(126)	(109)	(126)	1	0.687**
PWB	(112)	(112)	(117)	(113)	(112)	1

注 : 右上は相関係数、左下は有効標本数を示す ** $p < .01$ 、* $p < .05$

(2) FP、LOC、フロー体験及び Well-being との相互関係性

以上の結果をふまえて、FP、LOC、フロー体験と Well-being(SWB および PWB)との相互関係性について明らかにするために、共分散構造分析用統計ソフト Amos. 4 を用いたパス解析により検討した。また、有意水準 5% で偏回帰係数が有意でなかったパスを削除しモデルを構成した。そして、分析から得られた適合指数や、標準化偏回帰係数などの指標から以下に示すモデルを採択した。

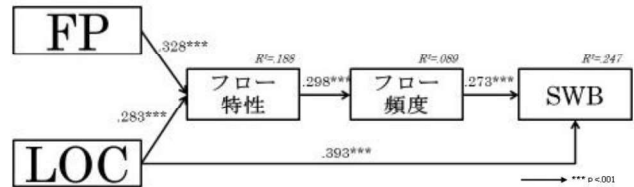


Fig.1 FP、LOC とフロー体験および SWB のパス図(モデル 1)

パス解析の結果、FP と内的統制感がフロー特性に影響を与え、フロー頻度に結びつくことで SWB を規定することを仮定したこのモデル 1 の適合度は、 $RMR = 4.256$ 、 $GFI = .973$ 、 $AGFI = .918$ 、 $RMSEA = .019$ であった。

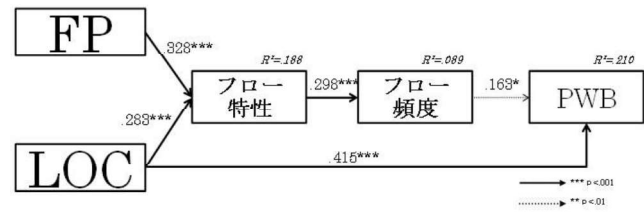


Fig.2 FP、LOC とフロー体験および PWB のパス図(モデル 2)

パス解析の結果、FP と内的統制感がフロー特性に影響を与え、フロー頻度に結びつくことで PWB を規定することを仮定したこのモデル 2 の適合度は、 $RMR = 31.301$ 、 $GFI = .934$ 、 $AGFI = .801$ 、 $RMSEA = .071$ であった。

このことから、当初設定した「空想傾性と内的統制感の高さがフロー体験に影響を与えることで、Well-being を規定する」という仮説は支持された。また、Well-being については、SWB を目的変数として設定したモデルの方が、PWB を目的変数として設定したモデルよりも説得力が高くデータの適合性が高いことが示された。

以上の結果の要因として、SWB と PWB の概念内容の違いや用いた Well-being 尺度の構成の違いが考えられる。本研究の調査対象者の平均年齢が 19 歳前後であるため、発達の観点から積極的に取り入れた PWB の尺度では、大学生のフロー体験がもたらす Well-being を捉えにくかったと推測される。また、イメージの感情増幅機能によって、FP の強さによるイメージ能力の高さが、フロー体験がもたらすポジティブ感情を増幅させることによって、全体的な感情バランスを重視する傾向を持つ SWB の方により強く作用したという可能性も考えられる。

(YAMAZAKI Yumi and MATSUOKA Kazuo)